

私は今、ウブドから戻ってきて、学校に通いながらデンパサールでコス生活をしています。今日はそのことについてお話ししましょう。

3階建ての3階が私の部屋です。

10畳くらい?の部屋には大きなベッド、冷蔵庫、テレビ、ドレッサー(机代わりになる)木製のいすが2個、カーテン、エアコン、鍵付きのクローゼットそのほかにキッチンとトイレとホットシャワーが一緒になった浴室があります。

ガスコンロはなかったので、卓上コンロを買ってバリへきてから初めて自炊をしています。

床はタイル張りです。こちらはどこでもそうです。

1階には24時間体制で管理人がいます。

シーツや枕カバーは希望すればいつでも交換してくれます。

これで1ヶ月2万5千円です。(水道代込み) バスタブがついていれば3万円です。タッチの差でほかの人にとられました。

電気代は一人暮らしで普通は2千円くらいらしいです。

日本人としては助かる家賃ですが、現地の安い給料の若い子は月に6千円の子もいるので彼らにとっては大変な金額だと思います。

ちなみに私が今いるネットジャムの女の子の給料も6千円ですし、語学学校の23歳の先生の給料も多いときで9千円です。

コスの目の前は大きな田んぼが広がっていて、そのせいか冷たい風が窓からいくらかでも入ってきます。

だから窓さえ開けておけばエアコンは不要です。

夜は治安と蚊のために閉めています。それでも朝方は薄ら寒くて目が覚めます。

キッチンにガスがないのは、外食の方が安いかららしいです。現地人は飽きもせず、ナンゴレンやミーゴレンを食べているようです。

私も大好きですが、さすがに毎日油ものでは胃がこたえるので、自炊では極力野菜スープにしています。

バリの家の造りは、日本風に言えばラン窓?高窓?があって、ガラスが入っていないので、トッケという5センチくらいのとかげみみたいなものが自由に入ってきます。壁の上のほうにいて、案外臆病で少しでも気配を感じたり、明かりをつけるとあわててエアコンの陰に隠れたり、その窓には絶対に下には降りてこないし、こちらでは「良いお守り」だそうですので、気にしないようにしています。

幸いなことにごきぶりがいないのです。バリは今、寒い季節なせいか蚊も私が来た当初の6月よりいません。

先日、クロボカンという所に住んでいる、73歳の日本人男性の家に遊びに行ってきました。

学校の先生の知りあいなのです。その家はデンパサールからはバイクで30分くらい。ビーチまでバイクで15分という少し田舎にあります。

しかしスミニャックという観光客がよく来る繁華街の郊外なので、急速に住宅が建っている場所で、そ

の方のエリアの入り口は踏み切りの遮断機みたいなものでガードされていました。

そしてその大きな一戸建ての家はなかなかのものでした。

2階建て、一階部分にはリビングルーム、キッチン、寝室が2部屋(一部屋は洗面台つき)、バスタブつきの浴室(トイレ込み)、2階部分には寝室が一つと、少し狭い部屋、大きなオープンスペースの部屋(バルコニーつき) ビルトインで小さな車なら入れるくらいのスペースもあります。

高い塀と門もあって、年間36万円です。

だから実質はコスよりずっと安いのです。この広さなら2人でシェアすれば月に1万ちょっとの家賃です。

しかしいいことばかりではありません。

車かバイクがないと不便です。市民向けのバスがないからです。

タクシーが初乗り50円といくら安くても、一方通行の道が多いので

すぐそばでも遠回りしなくてはいけないし、何か買いに行くにもタクシーを利用しなくてはなりません。

前述の男性は週に4日もテニスをしているような方ですので、バイクで買い物でも何でもするそうです。

もっとも家事は全部住み込みのお手伝いさんにしてもらい、しかもその娘さんが日本語が話せるので

2年半も前から住んでいるのに、インドネシア語が全くできないそうです。

前回、言葉について触れましたが、彼のように話せない日本人もたくさんいます。

それで通そうと思えばそれでも生活はできるのです。

彼はテニスはバリ人のグループともしているそうですが、バリ人の方が日本語の辞書を買って日本語でコンタクトをとっているそうです。

ウブドで知り合った71歳の男性もそうです。やはりお手伝いさんと一緒に住んでいて、

自分でお金を出して日本語の勉強をさせて、日本の料理ブックを買って、日本食を作ってもらっているとのことでした。

そこへいくとやはり女性はたくましいです。同じくウブドで出会った71歳の女性は

1年後には日常語を話せるようになり、事実、私と一緒に歩いていても多くの現地人と話をしていました。

やはりウブドで同じバンガローに泊まった31歳の独身の女性は20歳の大学生の時から世界を旅してすでに60カ国も行ったそうですが、私と入る間中で彼女が英語を話すところは一回も見せていません。つまり何とかなるものなのです。

何とかなるといえば、生活も工夫次第で何とかなるものです。

こちらの人々は「水浴び」の習慣があるので、ホットシャワーという感覚はないの水よりはましくらいのぬるさで、しかも水圧が弱くてお湯なんか小指の半分ほどの量でしか出てきません。

腹立たしくいらしながら使っていましたが、最近になってやっといいことを思いつきました。

彼らが水浴び用に使うらしい大きなポリ容器(日本では外でごみ用として使っている)にあらかじめお湯を張っておき、それを手桶ですくってかけるのです。これは快適で、やっと落ち着きました。

ここでの生活は8月12日まで、その後はサヌールで今度こそバスタブ付きのコスを借ります。

明日、現地人と一緒に見に行く約束をしています。

どこの国でもそうでしょうが、こういう契約は現地人と一緒にしなくては高くされてしまいます。

だからいかに日本人を含めていい人脈を作っていくかが、長期滞在のポイントとなってくると思います。